函館市医療・介護連携推進協議会 令和元年度第１回会議 会議録

■ 日　時

令和元年１１月２０日（水）１９：００～２０：２０

■ 場　所

函館市役所　８階　大会議室

■ 議　事

（１）平成３０年度函館市医療・介護連携支援センターの業務報告および収支報告
（２）函館市医療・介護連携支援センターの活動報告について
（３）広域連携について

■ 配布資料

資料１　　業務報告，収支報告
資料２　　医療・介護資源把握関係資料
資料３　　情報共有ツール関係資料
資料４　　相談統計
資料５　　普及啓発活動一覧
資料６　　研修関係資料
資料７　　入退院支援関係資料
資料８　　急変時対応関係資料
資料９　　看取り関係資料
〇協議レジュメ（協議事項⑴関係）
資料１０　広域連携関係資料

■ 出席顧問・委員（１４名）

本間顧問，澤木顧問，熊川顧問，氏家顧問，恩村委員，岩井委員，岡田委員，荒木委員
渡部委員，松野委員，寺田委員，保坂委員，齊藤委員，大泉委員

■ 欠席顧問・委員（３名）

水越委員，八幡委員，亀谷委員

■ オブザーバー

函館市医師会事務局，函館歯科医師会事務局，函館薬剤師会事務局，渡島総合振興局

■ 事務局

（函館市医療・介護連携支援センター）
　樫木センター長，佐藤係長，長谷川氏，中村氏，鎌田氏
　永澤事務部長（函館市医師会病院），八重樫医療・介護連携課長（函館市医師会病院）
（函館市役所）
　本吉保健福祉部次長，
　保健所）山田所長，深草次長
　高齢福祉課）佐藤課長
　地域包括ケア推進課）小棚木課長，三戸主査，栗田

５　会議の内容

小棚木地域包括ケア推進課長
　この会議は原則公開により行う。
　本日は，函館薬剤師会の水越委員，北海道看護協会道南南支部の八幡委員，函館地域医療連携実務者協議会の亀谷委員の３名から欠席の連絡があった。
　前回の平成３０年度第２回の会議録について，事前に各顧問・委員に確認し，特に修正の意見等なかったため，原案通りで市のホームページ上で公開している。
　次に，保健福祉部長からご挨拶をお願いしたい。

大泉座長
　本日，初めて座長を務めさせていただくため，函館市医療・介護連携推進協議会の令和元年度第１回会議の開催にあたり，一言ご挨拶を申し上げたい。
　本市においては，全国より早く人口減少や少子高齢化が進行しており，１０月末の時点で，６５歳以上の高齢者数は８９，９０１人で，高齢化率は３５．１％となっている。２０２５年には，３７．２％となることが推計されている。
　高齢者は，慢性疾患による医療機関への受診が多いことや，複数の疾病にかかりやすい，あるいは要介護，認知症の発生率が高いなどの特徴を有しており，医療と介護の両方を必要とすることが多いと思われる。
　医療・介護の連携については，従来から問われ続けてきた重要な課題のひとつであるが，当協議会では，地域の現状や課題を踏まえながら，今後の取り組みの方向性などについて活発なご議論をいただきたいと考えているため，忌憚のないご意見を賜りたい。
　皆様方には本協議会の円滑な運営についてご協力のお願いを申し上げ，私からのご挨拶としたい。

小棚木地域包括ケア推進課長
　次に，顧問の交代があったので紹介したい。６月から函館歯科医師会会長に就任された澤木健（さわきたけし）様に，田嶋前顧問に代わり就任いただいた。

また，委員にも交代があったのでご紹介したい。九嶋前委員に代わり八幡直美（やはたなおみ）様が就任いただいたが，残念ながら本日欠席の連絡をいただいている。
（澤木顧問から挨拶）

小棚木地域包括ケア推進課長
また，医療・介護連携支援センターの職員にも交代があり，中村真衣子様に就任いただいた。
（中村氏から挨拶）
なお，顧問・委員名簿を机上に配付しているのでご確認願いたい。
進行は，大泉部長にお願いしたい。

大泉座長
はじめに，報告事項（１）「平成３０年度函館市医療・介護連携支援センターの業務報告および収支報告について」に関して，事務局に説明願いたい。

小棚木地域包括ケア推進課長
※資料１「業務報告，収支報告」に基づき説明

大泉座長
報告事項（１）「平成３０年度函館市医療・介護連携支援センターの業務報告および収支報告」の説明に関し，ご質問等あるか。（なし）
異議無しということで，このまま取り組みを進めて参りたい。
それでは，報告事項（１）「平成３０年度函館市医療・介護連携支援センターの業務報告および収支報告について」の協議は，以上とする。
続いて，次の報告事項（２）「函館市医療・介護連携支援センターの活動報告について」，アからカまで一括してセンターに説明願いたい。

佐藤係長（函館市医療・介護連携支援センター）
※資料２　医療・介護資源把握関係資料
資料３　情報共有ツール関係資料
資料４　相談統計
資料５　普及啓発活動一覧
資料６　研修関係資料
資料７　入退院支援関係資料
資料８　急変時対応関係資料
資料９　看取り関係資料
以上の資料に基づき説明

大泉座長
　丁寧にご説明いただいた。
　報告事項（２）「函館市医療・介護連携支援センターの活動報告について」の説明に関し，質問等あるか。

岩井委員
　質問というより感想なのだが，情報共有ツール作業部会で作った『はこだて医療・介護連携サマリー』，函館市とはまた別の機関で使用するというような話を聞いた。私は情報共有ツール作業部会には直接タッチしていないが，作るにあたりすごく長い時間，いろいろ苦労して作ったと聞いているので，作ったものが他の機関で評価されて使われるということは非常に嬉しく思う。そしてこのツール自体がもっと使われるようになればいいと思うが，今の報告によると，少しずつパーセンテージが上がっているということなので，ますますこれが函館市で医療・介護の連携の一つのツールとして使われるようになることを希望している。

大泉座長
　おっしゃるとおり，これからまだまだ利用促進に努めていきたい。またそうなることを期待している。

本間顧問
　オーバーナイト対象患者さんの話をされたが，これはこの５年の間に救急搬送を受ける側，いわゆる二次病院側の先生方に，診たときに何ともなくても一晩は預かっていただきたいというお願いを徹底したというのもあるが，やはり送る側も，前からお話しているとおり，何でもかんでも送っていいかどうか。送る側もレベルを上げようではないかということで，これからもまだお互い勉強していくという機会が必要かと思う。
　そして，認知症が絡んでいる場合だが，非常に難しいと思う。認知症がある方の，特に精神科救急を，これに取り入れていくような方向性を考えていかなければならないと思っていた。さまざまなケースがあると思うので，認知症絡みのケースを別にカウントしていくシステムが必要と思う。

大泉座長
　ただ今のご意見も踏まえ，またさらに部会等々で議論を深めてまいりたいと思う。他に何かご意見あるか。

氏家顧問
　私は昨年この協議会に入らせていただき，全体をよく分かっていなかったのだが，今回の報告を聞き，素晴らしいと思った。このような取り組みが他の自治体でやられているのかどうかはっきり分からないが，私が前にいたところではここまで詳細な，綿密な

ものは無かったと思う。
　一つだけ，私は函病にいるが，多くの医療者がもしかしたら知らない可能性はあるかと。もう少し使われるようにするために，もちろん配るとか，研究会やセミナーも，効果的だとは思うが，たとえば市でやっているこういうものをもっとマスコミに取り上げてもらったり，それもしているのかもしれないが。そういう活動はどうなのかと思った。非常に良い取り組みであり，もっと使われていくような気がしているのだが，いかがか。

大泉座長
　事務局，いかがか。

小棚木地域包括ケア推進課長
　サマリーに関して，実はスタートのとき平成３０年３月末に３日間，競輪場のテレシアターで大々的に説明会をおこなって，そこで皆さんに周知をかけたり，新聞等にも取り上げていただいたりして，一時のタイミングでは，たしかにアピールの効果があったが，継続して使ってきていただいているなかで，なかなか広報を大々的に出せるタイミングがなかった。何か機会を見つけて広報，報道機関への情報提供など，工夫してまいりたいと考えている。

本間顧問
　私もこれ自体素晴らしいものだと思っているし，この会にいる方の智恵をしぼってこれだけいいものを作った努力を私もお聞きしている。
　「なぜ使わないか」というアンケートに，「既存のものがあるのでそれが使い勝手がいいのでわざわざこれに切り替える必要はない」という意見が意外と多くて，そこを切り崩すというとおかしいのだが，統一したものを函館市以外にも広げていこうではないかと考えているところ。
　函館市医療・介護連携推進協議会が，実は地域医療構想という立場でみると，いわゆる渡島・檜山全域，二次医療圏でいうと３つの二次医療圏を広域でみていくのだという動きが実はある。その中でこういうものを取り入れていくにあたり，函館市をこえて，今日は振興局の方も来ていらっしゃるが，振興局サイドから函館市以外の市町に，こういうものをどんどんアピールしていくと。先ほどお話しがあった研修会，勉強会というのは函館市の医療機関や施設の方などが対象だが，もっと他の市町にそういう説明会を開いていくということが大事かと思っている。あとのほうでその関係のお話が出てくると思うので，それに絡めて少々追加でお話をさせていただいた。

大泉座長
　ありがたくご意見頂戴した。他に何かご意見，ご質問等あるか。（なし）
　皆様から頂いた意見等をもとに，今後，関係団体と協議させていただくなど調整しながら，取り組みを進めてまいりたいと思うが，よろしいか。（異議なし）

それでは，報告事項「函館市医療・介護連携支援センターの活動報告について」の協議は，以上としたい。
続いて，協議事項（１）広域連携について，事務局から説明をお願いしたい。

小棚木地域包括ケア推進課長
※資料１０「広域連携関係資料」に基づき説明

大泉部長
協議事項（１）「広域連携について」に関し説明があった。論点に関しご協議をお願いしたい。ご意見，ご質問等あればお願いしたい。

氏家顧問
先ほど私が話した関係からみても，非常に素晴らしい取り組みだと思うし，この内容自体，もう少し修正するところもあるのかもしれないが，取り組みとしては素晴らしい。これを函館市だけでなくて，もちろん近隣の，北斗もあるし七飯もあるし，もっと広い範囲で知っていただくということが大事だと思っている。是非やっていっていただければと思う。

大泉座長
ありがとうございます。他にどなたかご発言あるか。

保坂委員
広げることはすごくいいことだし，みんなで使うというのもすごくいいことなのだが，参加してくれる人たちがどこまで分かってくれるか。実際，私も訪問などに行っていると，やはりケアマネジャーさんにしても，「どうやってやればいいんだろう」というところですごく悩んだりとか，相談されたりすることもあるので，そういうのを考えると，ただ集まって「説明しました」，で終わってしまうと，そこで止まってしまうような気がする。そうではなくて，「これをやって，次はそこに行ってもう少しかみ砕いてやって」ということを，センターの皆さんとか我々とかが行かなければならないのではないかという気がする。
この間，松前町で「訪問看護って何？」という話をしてほしいということがあったのでお伺いした時には，話の中は楽しく，「患者さんとこういうことやっているよ」などというのをやりながら，間にグループワークを入れて，「実際何が知りたいのか」というのを出してもらった。そうしたら，皆さん興味はあるが，やはり自分たちケアマネとしても悩んでいる部分もあるようだ。「患者さんに寄り添って，どこで最期を送りたいかとかを聞いてくれるとすごくいいんだよね」など，具体的な話しをすると，「ああ，そうか」というような言葉が出てくる。広域連携はすごくやってもらいたいし，進めていきたいが，その地域に入っていって，具体的なやり取りが必要になってくるのかなという気はした。

大泉座長

函館市のなかの情報共有ツールの進展も，少しずつ増えていっており，４０％台だったのが，今５０％台だったりしている。ここにもいろいろと大変な努力があったのだと思うし，現場と現場のやりとりがあったのだと思う。ですからおそらく，さらに今度広域でやるとなると，１回この『地域説明会』をやったからといって，もちろんすぐ進むわけではないだろうから，そういう地域に入っていくという尊い取り組みが絶対必要になってくるのだろうと，今のお話を伺って感じた。

本間顧問

ケアマネさんの人数は少ないのか。

保坂委員

少ない。この間，松前町でケアマネだけで１０人くらいだったか。

笠島主査（渡島総合振興局）

もう少しいた気がする。

保坂委員

ケアマネさんの中には，アセスメントについて「ここはどうすればいいのか」と聞いてくる方もいるので，困っている点もあると思う。

大泉座長

氏家顧問お願いします。

氏家顧問

もちろんケアマネの技術だとか知識だとか，それはそれで有していかないといけないと思う。そのためには個々の，地域に入りながらやるということが一つあるが。今作られているサマリーや，先ほどの救急のオーバーナイトとか，そういうシステム自体や，医療現場と介護現場の連絡システムというのは，非常に大事なものだと思う。それは，「こういうものがある」という普及はしていったほうがいいと思う。そういうことをしながら医療と介護が繋がっていくことによって，顔の見える関係がもしかしたら出来てくるかもしれないし，そういう情報の交換が出来てくるのではないかと思う。それはある地域だけでやるというのはなかなか大変なことだし，それをやること自体が労力なので，この会で時間をかけて作ったというのは素晴らしいので，それはやはり普及していったほうがいいのではないかと思う。

大泉座長

（岩井委員に）どうぞ。

岩井委員

説明会の件で質問したいのだが，広域連携を進めるにあたり，『地域説明会』というものを開催するということだが，実施内容の（３）医療・介護推進事業の活動実績および渡島保健所管内で展開する場合のイメージについての報告，というのがあるが，実際にこれはどういうイメージなのか，少々はっきりしないので，大まかでいいので実際にどういうふうになると広域連携になるかというのをお聞きしたい。

大泉座長
これは事務局でいいか。

小棚木地域包括ケア推進課長
実際のところ，まだ舞台が決まっていないところではあるが，これまで例えば函館市内でも，センターがどういう医療・介護連携について，エリアというか，サマリーもそうだし，ガイドもそうだし，いろいろ連携するための仕組みやルールなどについて「こういったものに取り組んでいる」というのを，市内のいろいろなところで出張講座などをやってきている状況がある。まずそういったところを知っていただくというところでイメージしてもらうということも当然であるし，それを踏まえた上で，各市町で同じように医療・介護連携事業には取り組まなければならないという命題を背負っているので，そのなかで各市町さんで，函館市の取り組みを意識して，一緒にやれるもの，たとえばサマリーを一緒に使えたら，そこの市町さんはいい状況になるのではないかと感じていただけるとか，そういうことをまず伝えるところから始めるのかなというふうには感じている。一緒にやっていける部分については，ニーズなどを聞き取った上で，連携できる状況を探していくことになるのかと私としては考えている。

大泉座長
いかがか。

岩井委員
了解した。

大泉座長
他にご意見，ご質問等あるか。（なし）
それでは，またこれも皆さんからいただいたご意見をもとに，今後関係団体と協議させていただきながら進めてまいりたい。
以上で本日用意した議事は全て終了した。全体通して何かご意見，ご質問等あればお願いいしたい。

岡田委員
今日の会議とはまた別なのだが，医療・介護の連携のお話なので。少々ＩＤ－Ｌｉｎｋに

ついての話をさせていただきたい。

なすびんネットという資料だが，これは大阪の泉南の地域でやっているＩＣＴの連携のケースだが。ＩＤ－Ｌｉｎｋという，我々が函館で１０年前から開発してやっているものを使っていらっしゃる。これは第８回の全国ＩＤ－Ｌｉｎｋ研究会，１１月２日に泉南，いずみサロンで行われた研究会の内容を見ていただいたら分かるが，もう函館よりも外で使われているということになっている。石川県，山形県そして佐賀県も全県で使う形になっている。しかも，こういう連携で最先端をいかれている尾道市（広島県）や長崎でも使われているということになっている。佐賀県とか徳島県では全住民をこのＩＤ－Ｌｉｎｋで将来的にはつなごうという試みをすることになっているようだ。

函館では中病，函病を中心に使っていたのだが，なかなか進まなかったのは，実は厚生院がＧ－ｎｅｔ，Ｃ－ｎｅｔという独自のＩＣＴを使用していたが，それをやめて，全面的に厚生院の１４施設，すべてＩＤ－Ｌｉｎｋつなぐということになった。この地域でワンプラットフォームということになると，全住民の９０％は使えるということになると思う。現状は，たとえば僕と保坂さんのところがＩＤ－Ｌｉｎｋでつないで，患者さんの情報のやりとりをしている。いつでもｉＰｈｏｎｅで情報を見れる形になっている。たとえば薬局は抗がん剤をやっている患者さんのデータなどを見たいわけで，その日とったデータなどを見ながらお話をしたいはず。今，五病はそれを紙で渡していると思うのだが，ＩＤ－Ｌｉｎｋを使えば見れるということになっているし，この間歯科の先生も，「今は周術期の歯科診療とか，抗がん剤やってる患者の歯科診療をやるのに，国立病院と歯科医院でつなぎたい」ということをおっしゃっていたので，ニーズは非常にあると思う。ワンプラットフォームになったので，これを地域で進めていきたい。オール北海道，オール函館でやっていくべき。これも広域に広げていくべきだと思う。また，サマリーの問題もあったが，サマリーも，いつも僕ら中病と五病から紙でもらい，それをもう１回自分たちで書くというのは面倒なのだが，ネット上にファイルの形で，エクセルでもワードでもいいが，そこに１回載せてもらうと，変えるところは少ししかないので，次に変えるときはそれで出来る。五病とか中病，函病はまだサマリー使っていらっしゃらないが。これをＳＥＣと相談して，同じ電子カルテからひっぱれるようにしてしまえば，書くところがあまり無くなる。そうすると広域であっというまにサマリーも広がっていくのではないかと思う。１回１回自分たちで紙に書いてやっていくのは非常に面倒なので，誰かが１回載せてくれると，あとは少しずつ直すだけで使えるようになると思う。将来的には救急医療で，函病，五病にいつもかかっている患者さんが救急で運ばれたときに，救急の先生が見て，前にどういう検査をしてどういう病気であったか等がその場で分かる。救急の先生にとっては誰も分からない人を診るというのは非常につらいので，そういうためにも使えると思うし，全部広がれば，災害時にネットさえつながれば，たとえば薬局がレセプトデータを全部つなげられるようになれば，薬の内容が見れる。災害時にもそういうサマリーが見れれば，非常に簡単にできる。そういうものを東北あたりはすごくお金をかけて作っているが，幸いＳＥＣが函館にあるので，おそらくかなり安く構築できると思う。そういうことを，どこでやっていけばいいのかをまた考えていただきたいと思う。実際には我々が，ＮＰＯ法人をたてて，そこで会費を徴収しながらやっている状況なので，そ

こでもルールや，これからどうするかということを話すが，我々だけで話していていいのかというところも考えていただければと思う。

大泉座長

貴重な情報をいただいた。（本間顧問に）どうぞ。

本間顧問

この件に関しては，函病さんがＭｅｄｉｋａを使っていらっしゃって，厚生院さんが今まではＧ－ｎｅｔ，Ｃ－ｎｅｔというものを使っていらっしゃったのを，大々的に厚生院さんすべての施設でＭｅｄｉｋａさんに変えることになり，そうなると函病さんとの連携が可能になるという話で，これは素晴らしいことだと思う。これが函館市にというか，全体に広がるのが理想なのだろうと思う。ただ，これは医科だけの話。今日のこの会は医療・介護連携推進協議会で，このなかでこの話を考えるとなると，これらをネットでつなぐということを広域にやるという話は前から出ていたし，将来的にそれをやっていくことにおそらくなるのではないかと思う。

それから，特に救急医療，あるいは災害医療についておっしゃっていたが，救急医療のなかで，患者さんがあちらの病院からこちらの病院に行ったときのデータのやりとりなど，つながっていることによって非常に便利だと。ただ，そのためにＭｅｄｉｋａさんを介するということになると，すべての施設でＭｅｄｉｋａさんを使う必要があり，全体としてやるには，やはり組織的には我々医師会が主導するとか，あるいは函館市さんが主導していくということになろうかと思う。そのあたりのコンセンサスというか，「いいことだからやろう」というふうに，なかなかできない。当然，素晴らしい構想が始まったと捉えて，これから統一していくということになろうかとは思う。

とりあえず厚生院さんがＭｅｄｉｋａに切り替えたということで，一歩前進したと私は捉える。あとは我々と函館市さんでどういうふうに活用していくのかということになろうかと思う。

氏家顧問

ＩＤ－Ｌｉｎｋについては，私も函館に来て，素晴らしいシステムがあると思った。函病では，すべてオープンにするというふうなことを今年からしている。

このシステムはあちこちで，地方医療再生基金でツールは出来ているのだが，やはり問題は，医療機関が自分のデータを出さないこと。相手のデータは見たいけど自分のところは出していないというところがあるので，お互いオープンにしないと見れないということがある。

それともう一つ，大きな病院でもまだ電子カルテじゃないところが函館ではあり，それが少し，見るときに問題あるのかなと感じている。ただ，時間とともにそれは出て行くし，今回だとＩＤ－Ｌｉｎｋでいくということになったので，もうこの地区ではそこに集約しながら，こういう医療・介護の連携についての，サマリーだとかもそこに置いておけば，そこから引っ張ってこれるというのもあるので，非常に便利なシステムなのではないかと思う。

岡田委員

電子カルテでなくても見れる。訪問看護はみんな電子カルテではないが見れるし，薬局も見れる。そういう面では非常に良いだろうし，ＮＥＣの電子カルテのところは多いので，このサマリーを我々が使うということになれば，ＳＥＣと交渉して，その電子カルテから自動的に必要な情報をとって，サマリーを勝手に作ってくれるということも可能になるかと思う。そうすると，情報をとるというのが我々にとっては非常に面倒なので，そういう面では楽かなと思う。特に救急の先生方は非常に楽になるのではないかと思う。是非よろしくお願いしたい。もちろん我々がやっているＭｅｄｉｋａの会議でも，どんどん新しい機能を入れたりしてやっているが，我々だけでやっていていいのかというのも，ここまで広がるとあるのかなと考えている。

大泉座長

今いろいろとお話が出ていたが，最初に岡田委員からお話があったように，厚生院さんが切り替えたことで，これでたとえば長崎や佐賀がずいぶん前から進んでいたような状況へ，函館でも大きく進むきっかけになった，いわゆる整ったという状態だと思う。これまでよりももっと進む分野になってきていると感じるところではあるが，顧問や委員の皆さんからお話があったように，すぐ進むということにもまたならず，課題があると思う。特に，個人情報のことを踏まえて，さまざまな課題が出てくるかと思う。そこのところを慎重に，関係機関と議論しなければならないと思う。そして医療・介護連携の分野を越えて，災害医療，救急医療，さらには広域で考えてこそ意味のある議論だと思うので，関係の皆さんと広く意見交換していかなければならないと思っている。いずれにしても時代の流れはそちらのほうに向かっていくので，素晴らしいことだと思うので，大いに議論していきたいと感じている。

他に何かあるか。

保坂委員

皆さんの許可をいただきたいことが１件ある。来週東京で，全国１２０名の訪問看護師さんが集まるところで函館の医療・介護連携推進協議会の動きと，研修会を開催するまでの私たちの動きについて話をしてほしいという依頼があり，ここで話し合っている内容や研修のこと，アンケートやコメントのこと等，全部載せたパワーポイントを作って持っていきたいので，ここで皆さんの了解をいただかなければならない。

本間顧問

全然問題ない。対外的にアピールする良いチャンス。是非やってきてほしい。

大泉座長

よろしくお願いしたい。他に何かご発言あるか。（なし）

では事務局から何かあるか。

小棚木地域包括ケア推進課長

次回の協議会は，センターの取り組みの進捗状況を確認しつつ，２月から３月に改めて日程等を各委員にお伺いして開催したいと考えているので，ご了承願いたい。

大泉座長

以上をもって函館市医療・介護連携推進協議会の令和元年度第１回会議を終了する。